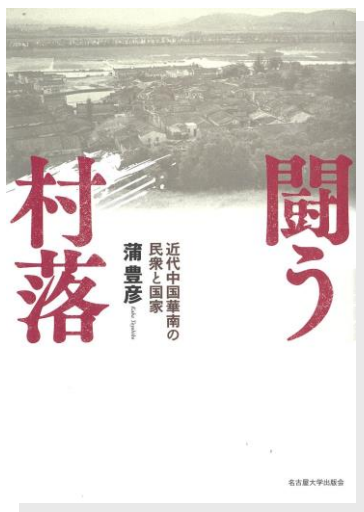


第16回 樫山純三賞 <学術書賞>受賞作



『闘う村落』
近代中国華南の民衆と国家』

蒲 豊彦 著
名古屋大学出版会 刊

かば とよひこ
蒲 豊彦氏の紹介

京都橘大学国際英語学部教授



1957 年 生まれ
1981 年 富山大学文理学部卒業
1986 年 京都大学大学院文学研究科博士後期課程満期退学
1991 年 京都橘女子大学文学部専任講師
1993 年 京都橘女子大学文学部助教授
2001 年 京都橘女子大学文学部教授
2017 年 京都橘大学（2005年に名称変更）
国際英語学部教授

第16回 樫山純三賞 <一般書賞>受賞作



『ロヒンギャ危機』
「民族浄化」の真相』

中西 嘉宏 著
中央公論新社 刊

なかにし よしひろ
中西 嘉宏氏の紹介

京都大学東南アジア地域研究研究所准教授



1977 年 生まれ
2001 年 東北大学法学部卒業
2003～2005 年 東南アジア教育省連携機構—歴史文化センター
（SEAMEO-CHAT）（在ヤンゴン）客員研究員
2007 年 京都大学アジア・アフリカ地域研究研究科一貫制
博士課程修了（地域研究博士）
2007 年 京都大学東南アジア研究所（当時）機関研究員
2008～2013 年 日本貿易振興機構・アジア経済研究所地域研
究センター研究員
2011～2012 年 ジョーンズ・ホプキンス大学国際関係大学院
（SAIS）客員研究員
2013～2016 年 京都大学東南アジア研究所准教授
2017 年 京都大学東南アジア地域研究研究所（組織統合による
名称変更）准教授
2017～2018 年 ヤンゴン大学国際関係学科客員教授

第 16 回 檜山純三賞の審査について

選考委員代表 末廣 昭

2006 年度から始めました檜山純三賞も、今回で 16 回目を迎えることになりました。新型コロナウイルスは、感染力の強いデルタ株などが加わることで、出口が見えない状況が続いています。そうした中で、檜山純三賞の選考委員会は、厳重な感染防止対策をとりつつ、7 月初旬と 9 月初旬に 2 回、選考委員会を開催しました。第 15 回の授賞式はごく少人数の出席者による伝達式にとどめましたが、第 16 回は参加者の範囲をもう少し広げるかたちで表彰式を実施しました。

さて今年は、2020 年 4 月から 2021 年 6 月までに刊行されたアジア関係図書の中から、学術書 36 点、一般書 32 点、両部門に共通する著作 7 点、計 75 点（昨年度は 58 点）を選考の対象としました。この中から 7 月の第一次選考で 18 点を選び、8 月末まで選考委員 6 名で分担して候補作を読み（一人平均 8 冊）、9 月 3 日の最終選考会で審議を重ねた結果、全員一致で、学術賞は蒲豊彦著『闘う村落-近代中国華南の民衆と国家』（名古屋大学出版会）に、一般書は中西嘉宏著『ロヒンギャ危機-「民族浄化」の真相』（中公新書）に、それぞれ決定しました。

蒲氏の著書は、明から清への王朝の交替、辛亥革命の勃発、1920 年代の国民党と共産党の対立、1927 年地方革命政府「海陸豊ソヴィエト」の誕生とその崩壊といった激しい政治変動の中で、広東省東部沿岸地域（華南地域）の農村に住む人びとが、新しい政府や革命集団とどのように渡り合ってきたのか。この点を、村落（宗族）が自己防衛のために武装し城塞化し、互いに激しい殺戮を繰り返した「械闘」という伝統を切り口に探っていきます。中国語の史料からはなかなか分からなかった華南地域の基層社会の実態を、当時の英米の宣教師が残した膨大な手書きの文書類の解読から克明に、かつ圧倒的な歴史像として描き出すことに成功した、中国近現代史研究の優れた成果です。

次に中西氏の新書は、メディアによく登場するものの、その実態も背景もよく分からなかったミャンマーの「ロヒンギャ難民問題」を、植民地期に遡る歴史、軍事政権時代の弾圧、民主化が露わにした宗教対立、2017 年 8 月の国軍による掃討作戦と 70 万人を超える難民の発生経緯、国際司法裁判所におけるアウン・サン・スー・チーの立ち位置などと絡ませて、明快に解き明かしていきます。とりわけ第 3 章（民主化の罨）は、軍政の重しが取れ、手にした自由が憎悪や暴力を生む「民主主義のダークサイド」を描き、読者に重い問題を投げかけます。国軍研究の第一人者でもある著者の分析は、クーデター以降のミャンマー情勢を理解する上でも必須であり、また本書の抜群の読みやすさと論理展開の明晰さが高く評価されました。

なお、最終選考会で最後まで残った本は、学術部門では段瑞聰著『蒋介石の戦時外交と戦後構想-1941-1971 年』（慶應義塾大学出版会）、水野広祐著『民主化と労使関係-インドネシアのムシャワラー労使紛争処理と行動主義の源流』（京都大学学術出版会）、商兆奇著『鉅毒事件と明治知識人』（東京大学出版会）の 3 点でした。一方、一般書では産経新聞に連載されて話題にもなった河崎眞澄著『李登輝秘録』（産経新聞出版）と園田茂人著『アジアの国民感情-データが明かす人々の対外認識』（中公新書）の 2 点です。

多数の優れた本を刊行された出版社と編集者に改めて敬意を表すると同時に、来年度もよい本の推薦を心からお願い申し上げます。